

# 九州大学箱崎キャンパス再生計画

## ～歴史的建築物のリノベーションから～

### 設計主旨

九州大学には伊都・六本松・馬出・箱崎・筑紫・大橋・別府のキャンパスがある。六本松キャンパスの機能は全て伊都キャンパスに移動し、福岡市東区に存在する箱崎キャンパスは、10年後の平成31年には全ての学科が伊都キャンパスに移動する。このことで、約1万6千人の学生が移動する。

10年後の箱崎キャンパスの利用法については決まっておらず、**工学部本館・法文学部本館・工学部事務局**などの、大正～昭和初期に建てられた歴史的に価値のある建築物は残して欲しい、という意見があった。

そこで私は、これらの建物の**リノベーション**により、歴史的建築物の保存と地域の活性化を目指したいと考える。

### 敷地調査

敷地は、福岡市東区にある九州大学箱崎キャンパス。

国道3号線、地下鉄九大箱崎前駅、貝塚駅などが周辺にあり、都心から近くアクセスしやすい。

箱崎キャンパスには、数多くの建築物が存在し歴史的に価値のあるものも幾つかある。

敷地の周辺には、飲食店やスポーツジム・専門学校など様々な施設が存在する。



図1：箱崎キャンパス



図2：工学部エリア

### 問題点

キャンパス移動による学生の流出（人口流出）と利用されない多数の建築物の出現。

雰囲気は暗く、気軽に入れる場所ではない。



写真1：工学部本館からの眺め



写真2：応用化学教室



写真3：航学実験棟

### 関連事項

六本松キャンパスの跡地については、半分は商業・居住などの複合的な利用、広場をはさんでもう半分は裁判所等、という案がほぼ決定している。全国の歴史的建築物のリノベーションの例として、レトロな商業施設、住民参加のコミュニティ・福祉施設、ギャラリー、オルゴール店などがある。

移転対象地区：約 79ha

- ・箱崎地区……………約 46ha
- ・六本松地区……………約 9ha
- ・原町地区……………約 24ha

移転先：約 275ha（伊都キャンパス）

- ・福岡市：西区元岡・桑原地区……………約243ha
- ・志摩町：桜井・馬場地区……………約 31ha
- ・前原市：泊地区……………約 1ha

移転人数：約18,600人

- ・学生……………約15,400人
- ・教職員……………約 3,200人

工学部本館	工学部事務局	法文学部本館
<b>概要</b> 1930（昭和5）年 設計：倉田謙 施工：清水組 鉄筋コンクリート造 3階建て、塔屋は5階 九大のランドマーク タイル貼り	<b>概要</b> 1925（大正14）年 設計：倉田謙 施工：佐伯工務所 煉瓦造2階建て 有形文化財登録 全焼した工学部本館の 煉瓦等を再利用	<b>概要</b> 1926（大正15）年 設計：倉田謙 施工：岩崎組 鉄筋コンクリート造 4階建て、1階は半地下 口型の中庭 1階はタイル貼り
<b>現状</b> 展示会や事務室として 利用されている	<b>現状</b> 事務室として利用され ている	<b>現状</b> 利用されていない



多くの人々が気軽に利用できる、歴史的建築物の新しい文化施設ゾーン

地元住民と外部の人々が、愛着を持って利用し責任を持って管理する。

九州産業大学 工学部 建築学科  
諫見研究室 06TA095 山田拓郎

# 九州大学箱崎キャンパス再生計画

## ～歴史的建築物のリノベーションから～

### コンセプト

歴史的建築物をリノベーションすることにより、文化的・歴史的価値を残しつつ、文化・歴史・芸術の情報発信拠点にする。

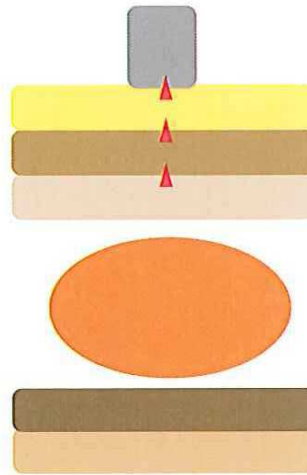
地元住民と外部からの来場者とが一体となり、歴史的建築物を利用・管理していく。

今回は工学部本館に注目し、これを歴史資料館・美術館・サークル活動の場などに利用できるようリノベーションする。

**地元住民**は、集会やサークル活動の場として利用し発表の場を設け、文化活動を通して地元住民や他の人達との繋がりを持つ。

また、資料館や美術館を通してこの建物をよく知り、より身近なものとして愛着を持って利用・保存する。

**外部からの来場者**は、資料館や美術館を訪れ箱崎や歴史的建築物について学び、そこで行なわれている住民の文化活動に触れ、参加することができる。



工学部本館

4・5F 展望室

3F 集会・サークル室

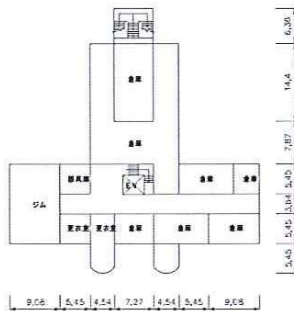
2F 美術館

1F 資料館・休憩室

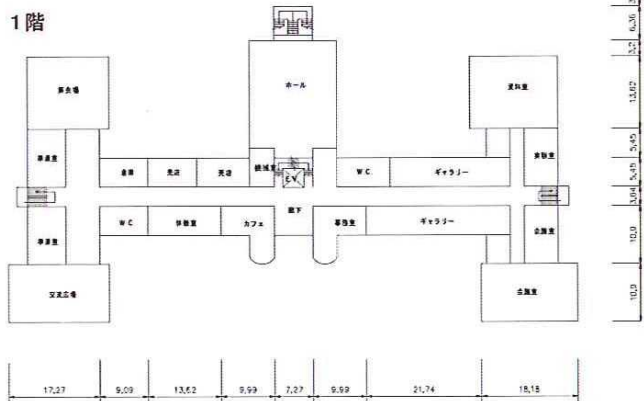
イベント広場

工学部事務局

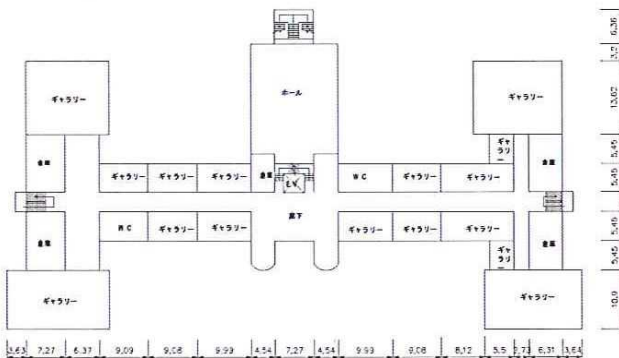
地階



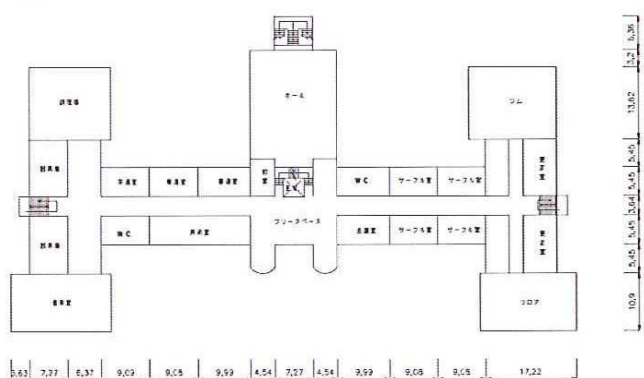
1階



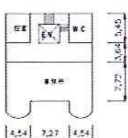
2階



3階



4階



5階



R階



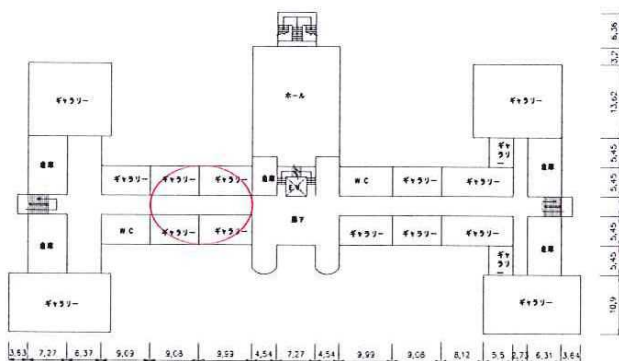
九州産業大学 工学部 建築学科

諫見研究室 06T A006 山田拓郎

# 九州大学箱崎キャンパス再生計画

## ～歴史的建築物のリノベーションから～

2階



左の赤い丸の部分は、工学部本館の2階にある、美術館のメインとも言えるギャラリーである。

下の写真は、この部分の模型である。

工夫した点として、廊下の床を石畳の模様にしたことと、ギャラリーの床を木目にしたことにより、歴史的建築物を建物内でも感じてもらうとともに、アクセントを付けました。

また、各部屋2つを1つにし、それらの部屋をさらに壁を通して繋げ、各部屋に繋がりをを持たせ全ての部屋を通らせる狙いがあります。

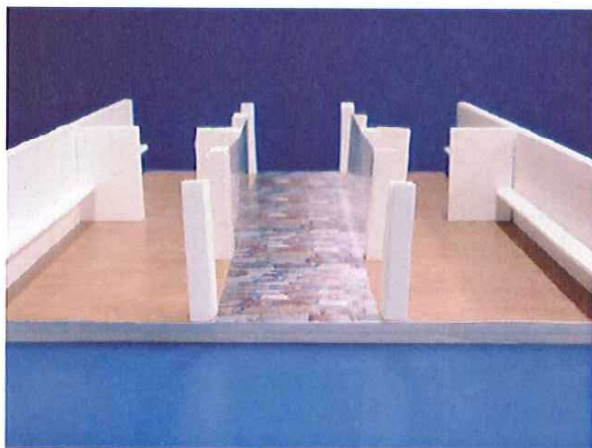


写真1：廊下からの眺め

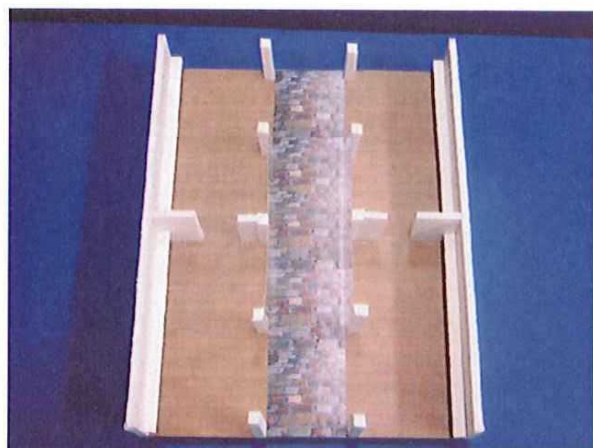


写真2：上からの眺め

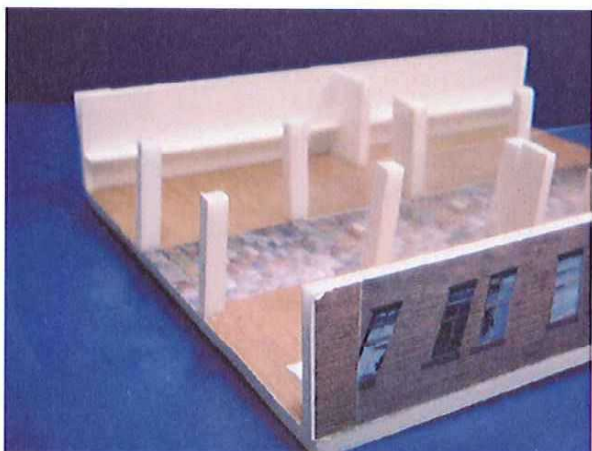


写真3：外からの眺め

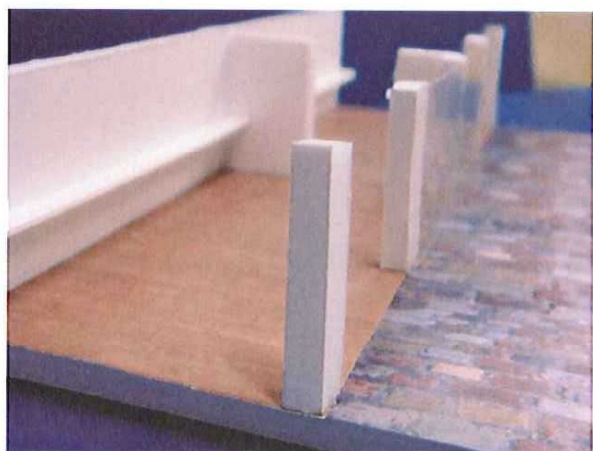


写真4：ギャラリーと廊下